

学会だより

第 100 回 日本消化器内視鏡学会

山本 博徳

(自治医科大学内科学講座消化器内科学部門)

第 100 回の記念すべき日本消化器内視鏡学会 (JGES) は、日本消化器関連学会週間 (JDDW) 2020 の一環として河合 隆会長 (東京医科大学消化器内視鏡学教授) のご担当で開催された (2020 年 11 月 5~8 日, 神戸)。今回の学会開催においては、COVID-19 pandemic の状況のなかで開催の可否すら不明確な状態でのご準備は大変だったと考察する。そのような状況のなかでも現地開催とオンライン参加のハイブリッド形式で実施され現地参加 2,000 人以上、オンライン参加を合わせると 20,000 人以上と例年と変わらない盛況で無事成功を取めたことは素晴らしい。心より、お祝い申し上げたい。

私自身は神戸の学会会場に行って現地で参加した。例年の JDDW のような多数の参加者が集う活気はみられなかったが、思った以上の参加者が集まっていたように感じた。

JGES としては Strategic International Session 1 題、その他の International Session 2 題、JGES コアセッション 3 題を含め、16 の主題が組まれており、そのほか他学会との合同開催となる主題、一般演題など多数のセッションが企画どおりに開催された。私自身も学会第 3 日目に開催された International Session シンポジウム「アジアにおける上部・下部消化器診療の最前線 (Cutting edge of upper and lower GI endoscopy in Asia)」の司会を名古屋大学の藤城光弘教授とともに務めさせていただいた。日本国内からの 3 演題に加え、マレーシアから 1 演題、アメリカ合衆国から 2 演題、台湾から 1 演題、香港から 1 演題、シンガポールから 1 演題の講

演とそれに引き続いてのディスカッションが行われた。いずれの国からの講演、ディスカッションも滞りなく、音声もむしろ聞き取りやすい状況であった。インターネットの発達した現代だからこそ可能となったオンライン参加のおかげで海外の先生方とも問題なく、十分な意見交換ができたのではないかと考えている。人々の行き来がきわめて制限されているなかでの大きな学会としては大成功であったのではないかと考える。

また、オンライン参加の可能なハイブリッド形式であると別会場の講演を聞くことも容易であり、レストランやホテルの部屋にいてもライブ配信で参加可能であること、学会期間中に同時に行われていて聞けなかった別のセッションもオンデマンド配信期間に視聴可能なことを考えると、メリットも多くあることが実感できた。今回はコロナ禍のために仕方なく実施されたハイブリッド形式での開催ではあったが、これを機会に今後将来的にも活用していける学会の新たな形式である可能性を示唆していたように感じている。

2021 年の JDDW の一環で開催される第 102 回総会は私自身が会長をさせていただくことになっている。1 年後には新型コロナウイルス感染症も落ち着き従来どおりの開催が可能となっているのか、感染は落ち着いていても Web 参加のメリットも残した形での開催となるのかまだまだ不明確なことは多いが、消化器内視鏡学の発展普及に貢献できる有意義な会としていきたいと考えているので、ご協力をお願いする。